

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2014-2015IPC Athletics 競技規則及び IAAF 競技規則、2015 年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申合せ事項により実施する。

2 練習について

- (1) 大会前日（7月31日）の本競技場での練習は、トラック種目・跳躍種目のみとし、午後2時から4時30分まで、準備に支障がない範囲で行うことができる。スタディングブロックとハードルを使った練習は、指定された場所・レーンで行うこと。走幅跳は、メインスタンド側跳躍ピットで練習を行うこと。走高跳は、第1曲走路内側で練習を行うこと。フィールド内芝生への立ち入りは禁止する。投てき種目については、練習できない。練習中は主催者の指示に従うこと。
- (2) 大会当日のフィールド種目の練習は、競技前の公式練習のみとする。
- (3) 大会当日は、開門から1日目（8月1日）は午前10時まで、2日目（8月2日）は午前9時30分まで、準備に支障のない範囲で、トラックでの練習することができる。練習中は審判員の指示に従うこと。

3 招集について

- (1) 招集所は、メインスタンド下の雨天練習場内に設ける（100mスタート側）。
- (2) 招集時刻は次のとおりとする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始時刻の30分前	競技開始時刻の20分前
フィールド種目	競技開始時刻の40分前	競技開始時刻の30分前

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、その種目を棄権したものとする。
- (4) 代理人による点呼は認めない。複数種目に出場する競技者で競技時間が重なる場合は、事前に同時出場届を招集所競技者係に提出をすること。
- (5) 招集所では、ナンバーカード、競技用靴、衣類・カバンなどの商標の確認を行う。なお、通信機器、携帯音楽プレイヤー、ビデオカメラ等は競技場内持ち込むことはできない。
また、トラック競技に出場する選手は、腰ナンバーカードを競技者係で受け取り、右腰に付けること。
- (6) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの招集開始時刻の60分前までに招集所の競技者係に提出をすること。提出するリレーのオーダー用紙は招集所で配布する。
- (7) リレー競技においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用すること。
- (8) 棄権をする場合は、当該競技の招集開始時刻までに、招集所競技者係に棄権届を提出すること。

4 競技場への入退場について

競技場への入退場は、すべて競技役員の指示誘導による。

5 ナンバーカード

胸と背にはっきり見えるように2枚のナンバーカードを付ける。ただし、跳躍競技の競技者はどちらか一カ所で良い。

6 競技

- (1) 本競技場は全天候舗装である。スパイクのピンは11本以内、長さは9mm（走高跳・やり投は、12mm）を超えてはならない。また、スパイクの直径は先端近く（少なくとも長さの半分）で4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- (2) 400mまでの種目及びリレー種目のスタートについては、スターティングブロックを使用しなければならない。スターティングブロックのセッティングを競技者ができない場合は、招集開始時刻前までに位置を示す図を提出することにより、競技役員が競技者の代わりに行うことができる。
- (3) 5000m・10000m競走では下記のとおり制限タイムを設ける。

	ゴール制限タイム	最後の1周に入る制限タイム
男子5000m	25分00秒00	23分45秒
女子5000m	30分00秒00	28分30秒
男子10000m	50分00秒00	48分30秒

最後の1周に入る制限タイムを超えたものは、競技役員の指示により直ちに競技を終了すること。それぞれの制限タイムを超えた場合は、途中棄権とする。

- (4) スタート時のフライングは不正出発1回目で失格とする。
- (5) 走高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。

区分	練習	バーの上げ方
男子	1m10cm	1m15cmから5cm刻み。一人になった場合はこの限りではない。
女子	90cm	95cmから5cm刻み。一人になった場合はこの限りではない。

※1位決定のためのバーの上げ下げは2cmずつとする。

- (6) 跳躍種目・やり投げで、助走のマーキングを競技者ができない場合は、招集開始時刻前までに位置を示す図を提出することにより、競技役員が競技者の代わりに行うことができる。
- (7) 競技に使用する用器具は、主催者が用意したものを使用すること。ただし、やりについては、検定を受けたものについては、使用することができる。検定は、競技開始時刻1時間前までに、用器具庫前で行う。
- (8) 表彰 各種目3位まで、表彰所にてメダルと賞状を授与する。4位から8位までには、賞状を大会本部にて渡す。

7 ドーピングコントロールテスト

IPC公認種目に出場する選手を対象にIPCの規則に従いドーピング検査を行う。

8 抗議

2015年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則 第146条による。

9 その他

- (1) 競技会開催中の事故については、応急処置以外の賠償責任を負わない。
- (2) 持ち物は、各自で責任を持って管理すること。
- (3) ゴミは各自で持ち帰ること。